

まだまだ暑さは残っていますが、夜に鳴く虫の声に秋の気配を感じるようになってきました。

この夏、日常から離れていろいろな思い出をつくられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

私は生家に帰省し、親族との交流の時を過ごしました。そして、墓参りなどすることで、改めて今の自分が命のつながりの一部分となっていることを再認識しました。



児童精神科医の佐々木正美先生は著書の中で、心理学者E・H・エリクソンの次のような言葉を紹介しています。

自分に与えられた命への感謝がなければ、人の命を尊重する気持ちは生まれません。自分に与えられた命への感謝がある人には、次の世代の命を育む力がある。

「今の子育ては昔と違う」ということを良く耳にします。家族形態の変化や科学的に明らかになってきたことによる育児法の変化、さらにはあふれる情報など、確かに違うことがたくさん。しかし、子を授かり、かわいく思い育て、その子がまた命をつないでいく。これはずっとずっと続いていて、この基本は変わらないのではないのでしょうか。



私の帰省先は山形県で、6月18日に震度6の地震がありました。親族にさほどの被害はなかったのですが、より震源に近いところに住む友人は住宅損壊のショックから元気を無くしていました。

9月1日は防災の日です。「これまで経験したことのない、命の危険の恐れもある自然災害」と言うような言葉も最近良く聞くようになりましたね。親からこどもへ、そして次の世代へと引き継がれてきた『輝く命』を守るために、安全対策や防災グッズの準備などできるだけことはしたいものです。